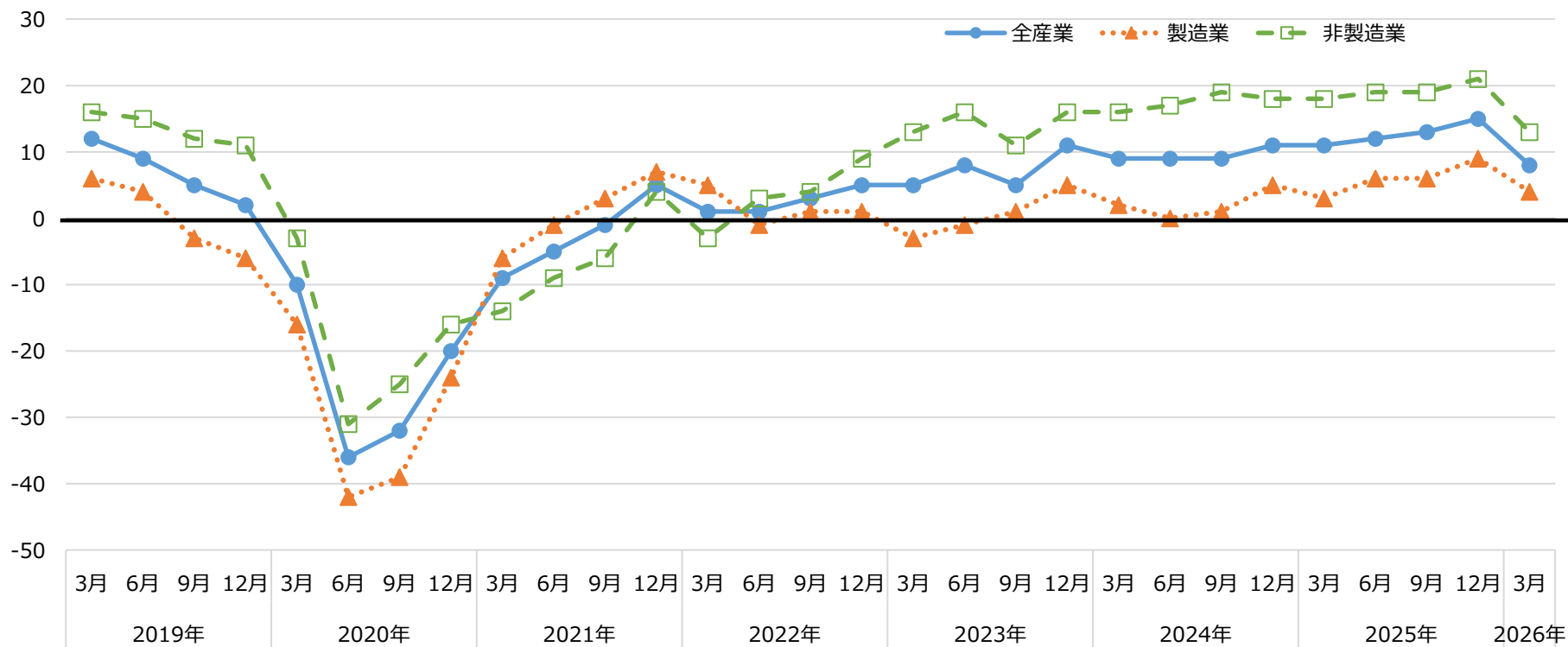


大阪都市魅力創造戦略関連施策 を取り巻く状況

業況判断DI (近畿)

- 新型コロナウイルス感染症（以下、「コロナ」という）の影響を受けて企業の景況感（日銀短観DI）は、2020年3月から6月にかけて急速に落ち込んだが、その後は緩やかに回復。

業況判断DI (近畿地区)

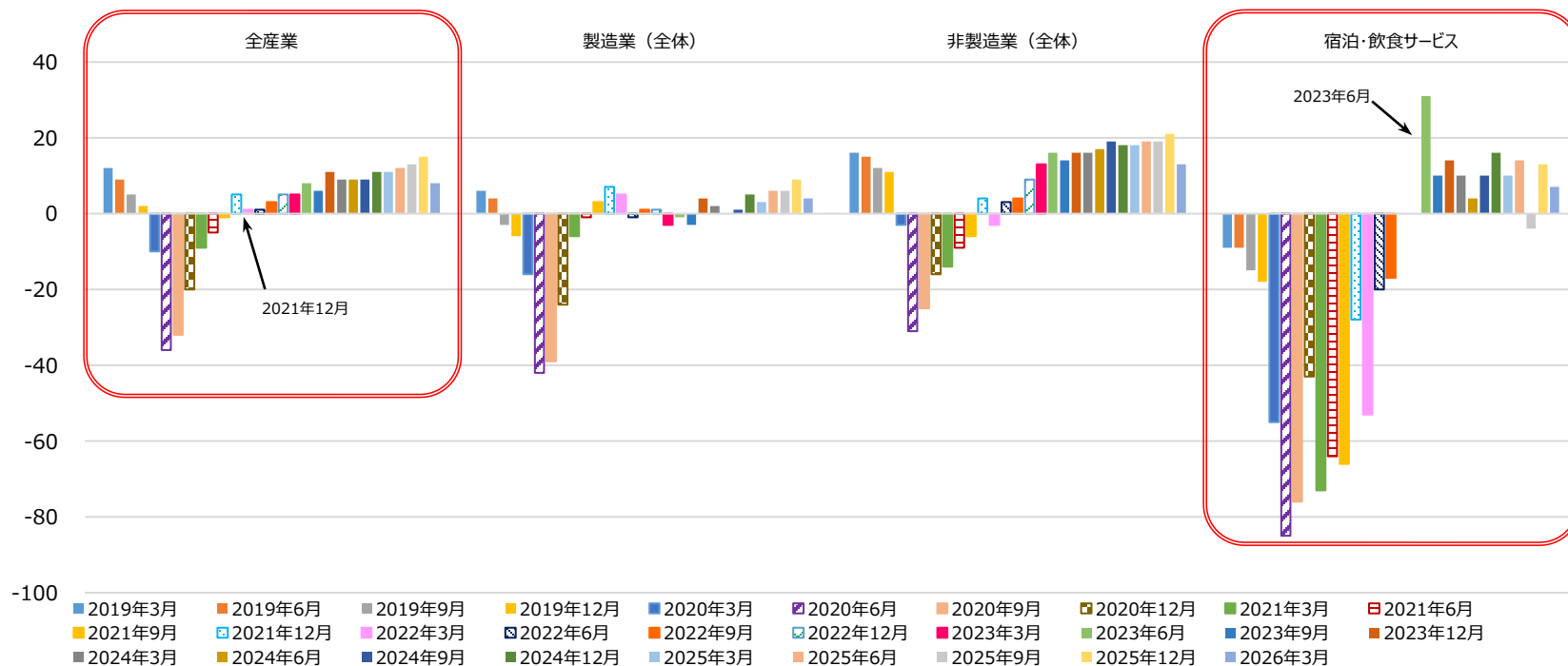


出典：日本銀行大阪支店「全国企業短期経済観測調査（近畿地区）」より作成
※2026年3月の数値は先行きDI

業種別DI (近畿)

- 近畿の景況感は、全産業ベースでは2021年12月から持ち直しの傾向が見られ、その傾向が継続している。
- 先行きについて、特に非製造業では、人手不足の深刻化、物価高の継続、海外需要の減速が国内需要に波及することへの警戒感から悪化が見込まれている。

業種別業況判断 (近畿地区)〔全産業、製造業、非製造業、宿泊・飲食サービス〕

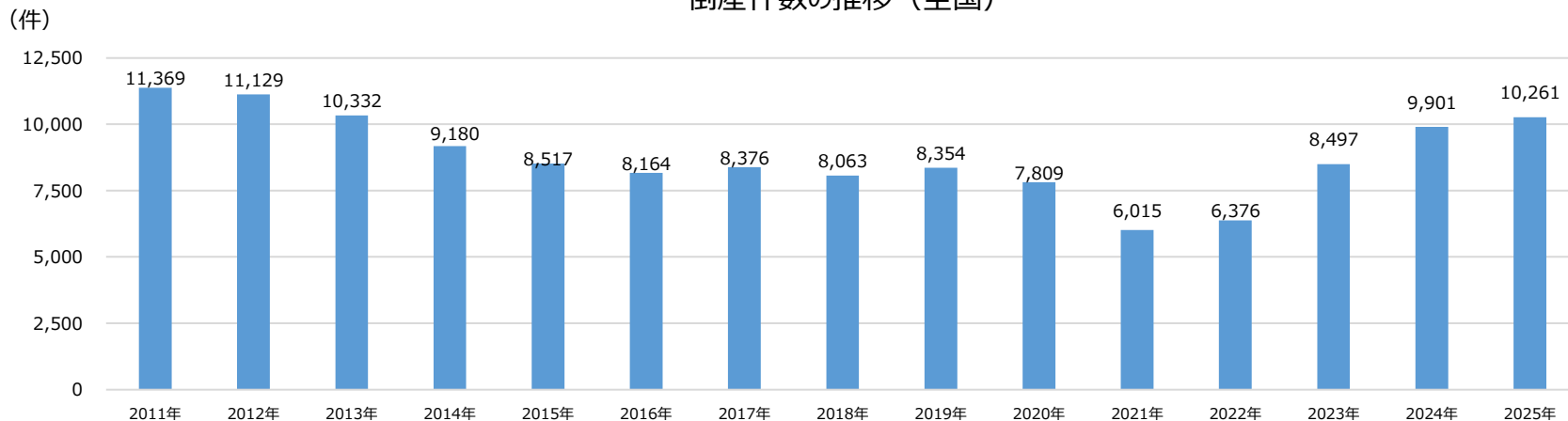


出典：日本銀行大阪支店「全国企業短期経済観測調査（近畿地区）」より作成
 ※2026年3月の数値は先行きDI

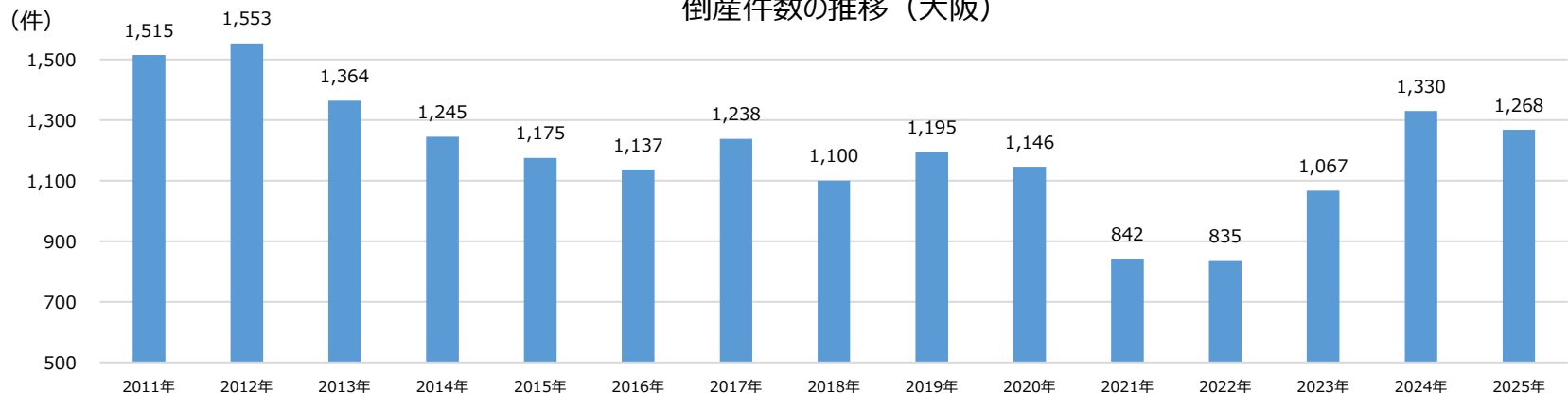
倒産の動向（全国・大阪）

- コロナの拡大以降、実質無利子・無担保融資などの資金支援等により2021年、2022年の大阪の倒産件数は減少傾向にあったが、2023年以降は人手不足や物価高等の影響で大幅に増加傾向にある。

倒産件数の推移（全国）



倒産件数の推移（大阪）



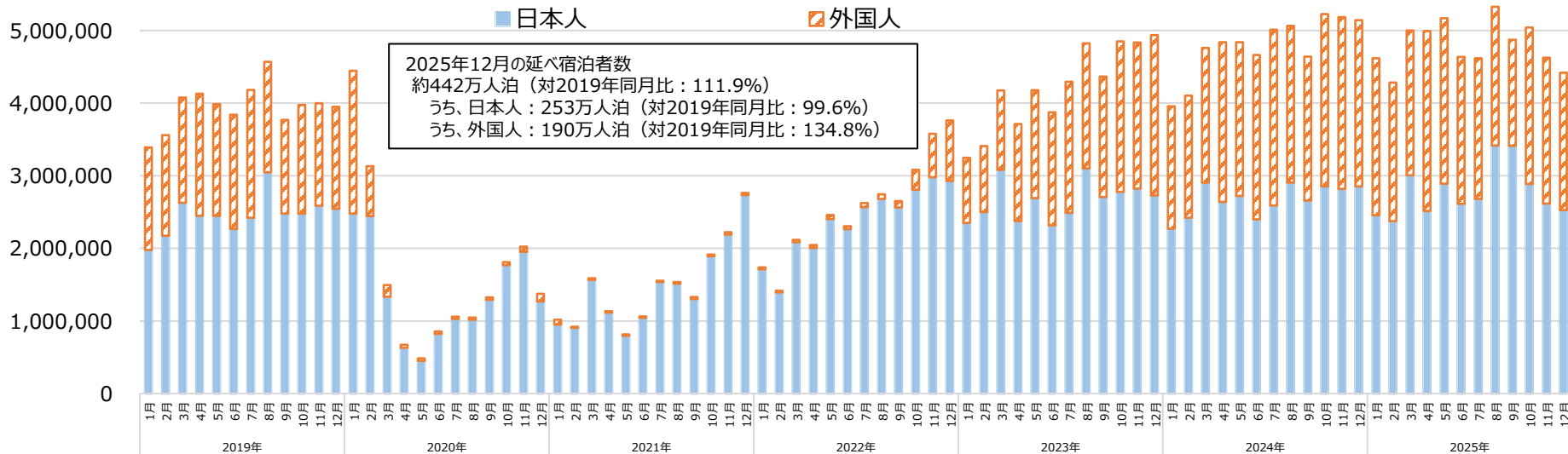
出典：帝国データバンク「全国企業倒産集計」より作成

宿泊者数の状況（大阪）

- 2024年には日本人延べ宿泊者数、外国人延べ宿泊者数ともに、コロナ拡大前を上回る水準に推移。2025年は、外国人延べ宿泊者数が前年と比較し減少したものの、日本人延べ宿泊者数が過去最高数値に達しており、高水準を維持。
- また、2025年12月の客室稼働率（全体）は73.0%であり、全国2位の水準となっている。

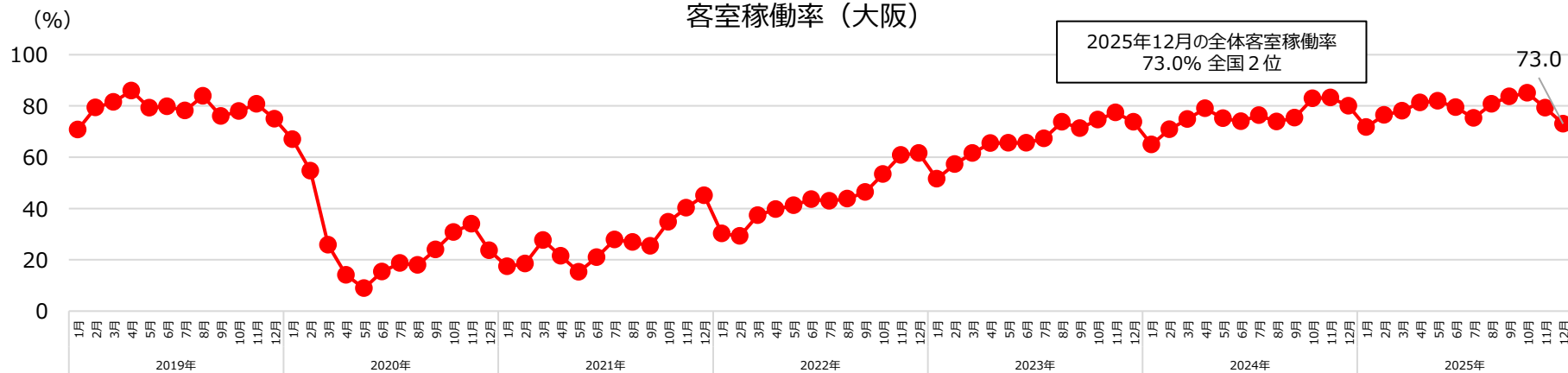
(人泊)

延べ宿泊者数（大阪）



出典：観光庁「宿泊旅行統計調査」より作成

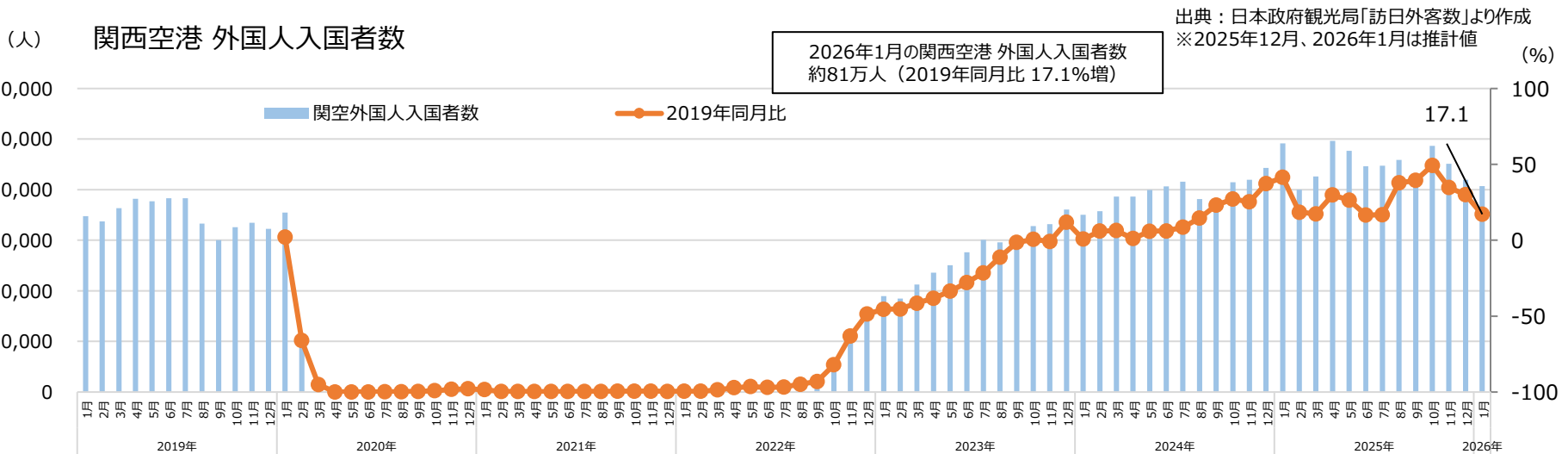
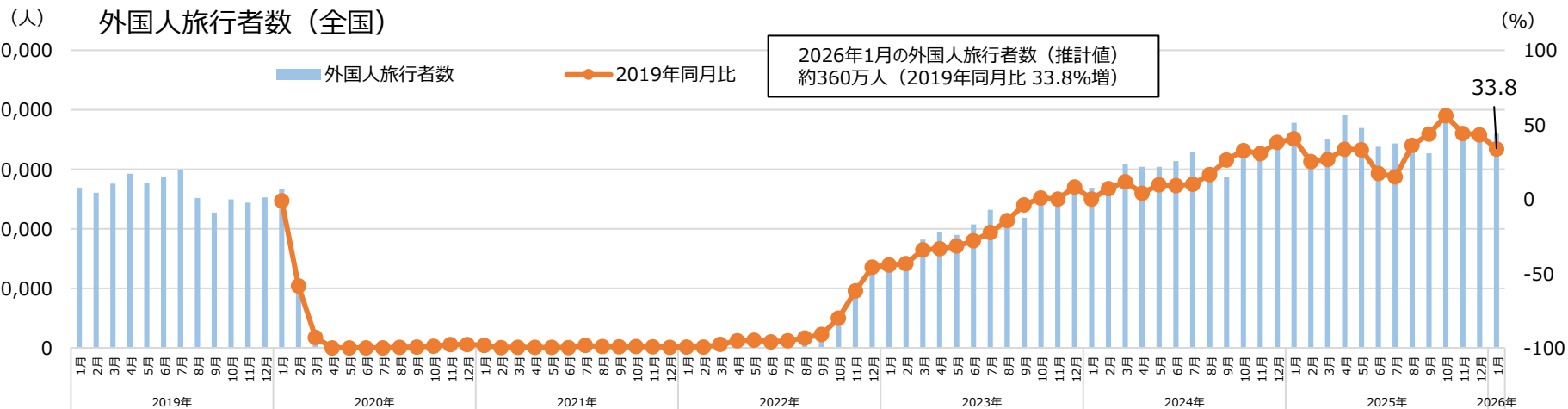
客室稼働率（大阪）



出典：観光庁「宿泊旅行統計調査」より作成

インバウンドの状況（全国・関西空港）

- 2022年の入国者総数上限撤廃により、外国人旅行者数及び関西空港外国人入国者数は改善傾向となり、2023年12月以降、コロナ拡大前を上回る水準で推移。
- 2025年は、外国人旅行者数及び関西空港外国人入国者数ともに過去最高値を達成。



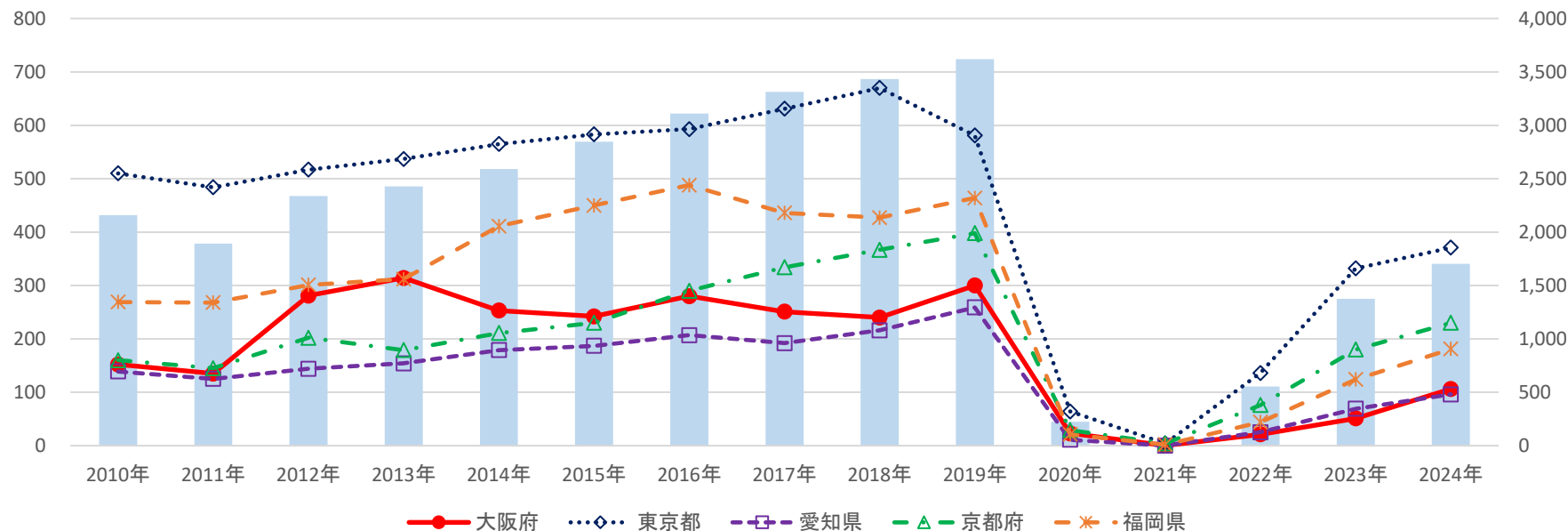
国際会議の開催件数（全国・国内主要都市）

- 2020年のコロナ拡大の影響により大阪における国際会議の開催件数は大幅に減少したものの、2021年以降は増加傾向。
- 依然としてコロナ拡大前の水準に戻っていないものの、2024年は前年と比較し、大阪における国際会議の開催件数は倍増。

(件：都府県)

国際会議開催件数の推移

(件：全国)

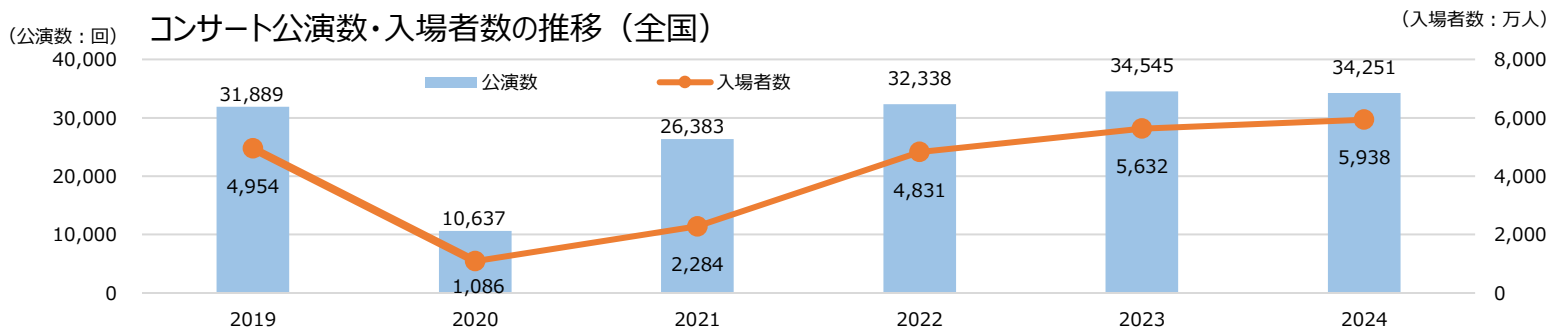


	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
大阪府	152	135	281	314	253	242	280	251	240	300	23	0	21	51	106
東京都	510	484	517	537	565	583	593	631	670	581	64	4	136	332	371
愛知県	139	125	144	154	179	187	207	192	216	259	11	0	25	69	96
京都府	160	145	202	179	211	230	290	334	367	398	29	4	76	180	230
福岡県	269	268	301	312	411	450	488	436	427	464	21	2	44	124	181
全国	2,159	1,892	2,337	2,427	2,590	2,847	3,112	3,313	3,433	3,621	222	29	553	1,376	1,702

出典：日本政府観光局（JNTO）「国際会議統計」より作成

文化芸術分野の状況

- 2023年には公演数、入場者数ともにコロナ拡大前の2019年数値を上回り、2024年については前年と比べ、公演数は同水準に、入場者数は前年を上回る水準に推移。
- 2024年度に文化芸術イベントを直接鑑賞したことがある人の割合は43.1%となっており、直接鑑賞しなかった理由としては、「関心がない」が最も高い。



出典：一般社団法人コンサートプロモーターズ協会「ライブ市場調査」より作成

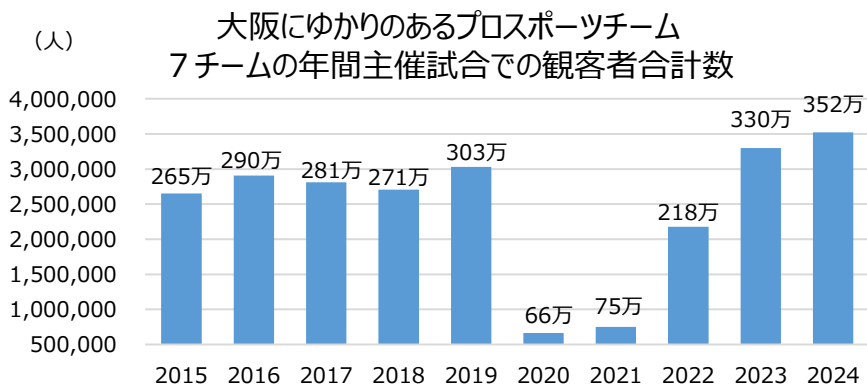
この1年間に直接鑑賞した文化芸術イベント（全国）（単位：％）	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
文化芸術イベントを直接鑑賞した	67.3	41.8	39.7	52.2	45.3	43.1
映画（アニメーション映画を除く）	36.2	20.9	17.6	26.2	19.0	17.2
歴史的な建物や遺跡	26.6	13.8	11.6	17.9	15.1	13.2
美術	23.6	11.4	10.9	18.4	13.9	12.2
自然史博物館、科学館、動物園、水族館など	—	—	—	—	—	10.0
ポップス、ロック、ジャズ、歌謡曲、演歌、民俗音楽等	18.5	5.7	8.9	12.3	11.0	9.5
歴史系の博物館、民俗系の博物館、資料館等	16.5	7.7	6.6	12.6	10.0	8.4
オーケストラ、室内楽、オペラ、合唱、吹奏楽など	13.4	4.6	6.1	10.2	9.4	7.4
アニメーション映画	13.9	11.2	9.6	13.1	7.9	5.3
地域の伝統的な芸能や祭り	8.0	2.0	2.1	4.2	4.7	3.9

この1年間で文化芸術イベントを直接鑑賞しなかった理由（全国）（単位：％）	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
関心がない	34.7	23.2	22.8	22.6	23.6	23.2
入場料・交通費など費用がかかりすぎる	15.2	8.4	11.9	10.8	14.0	13.6
生活圏で公演や展覧会などが行われていない。	16.3	13.7	16.3	12.8	15.6	11.2
時間がなかなか取れない	9.3	6.3	3.4	7.0	10.6	9.8
一緒に行く仲間がいない	8.1	4.3	5.3	6.1	6.2	6.5
テレビ、ラジオ、CD・DVD、インターネットなどにより鑑賞できる（鑑賞した）ので	11.2	9.0	7.9	6.1	5.7	5.6
魅力ある公演や展覧会などが少ない	11.5	7.4	5.1	5.8	5.3	4.9
新型コロナウイルス感染症の影響により、公演や展覧会などが中止になった、又は外出を控えたから	—	56.8	37.6	29.0	9.1	3.8

出典：文化庁「文化に関する世論調査報告書（令和7年3月）」より作成

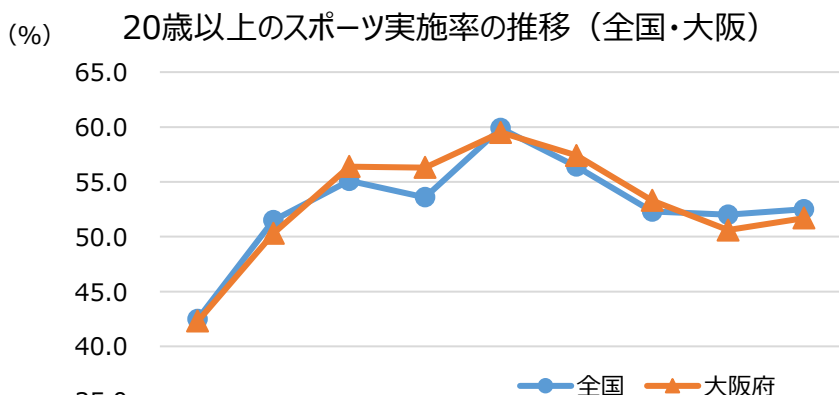
スポーツ観戦、実施の状況

- スポーツの試合や大会においても中止・延期や無観客での開催などにより、2020,21年度はスポーツを観戦する機会が減少したが、2023年度は、コロナ拡大前の水準を上回る水準まで回復。
- 2024年の大阪の20歳以上のスポーツ実施率は、前年と比べ微増しているものの、2021年以降、減少傾向にある。



7チーム：ガンバ大阪、セレッソ大阪、オリックス・バファローズ、阪神タイガース（京セラドームでの試合のみ）、大阪エヴェッサ、花園近鉄ライナーズ、NTTドコモレッドハリケーンズ大阪

出典：各チーム公表資料より作成



出典：スポーツ庁「スポーツの実施状況等に関する世論調査」
※大阪の数値は、ローデータより算出

この1年間に直接現地観戦したスポーツ種目（全国・単位：%）	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
プロ野球（NPB、メジャーリーグ含む）	13.7	9.9	6.8	11.2	13.4	13.2
Jリーグ（J1、J2、J3）	5.1	3.9	2.8	4.2	4.6	4.9
高校野球	4.7	3.0	2.6	4.1	4.1	3.8
バスケットボール（Bリーグ、NBA含む）						2.2
その他野球、ソフトボール	2.1	1.7	1.2	1.5	1.7	1.8
サッカー日本代表	1.8	1.3	1.3	2.7	1.8	1.7
マラソン、駅伝	2.3	1.8	1.1	1.8	1.7	1.7
ゴルフ	1.9	1.4	1.1	1.5	1.5	1.6

出典：スポーツ庁「スポーツの実施状況等に関する世論調査」より作成

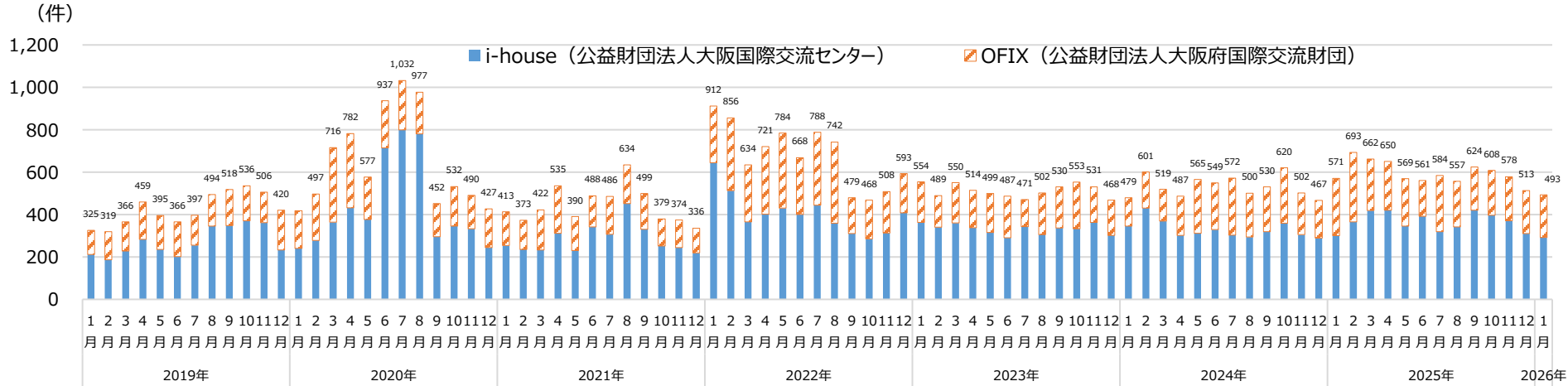
この1年間に運動やスポーツを実施した理由（全国・単位：%）	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
健康のため	73.9	79.6	76.2	79.4	78.7	80.6
体力増進・維持のため	53.9	57.7	52.0	56.3	55.1	55.4
運動不足を感じるから	51.5	53.7	48.1	45.4	43.4	44.1
筋力増進・維持のため	37.7	40.4	35.7	39.4	38.6	40.2
楽しみ・気晴らしとして	43.8	46.0	42.1	40.4	38.3	36.8
肥満解消、ダイエットのため	30.4	33.1	29.9	31.2	28.9	28.8
友人・仲間との交流として	20.0	16.6	14.7	14.7	13.6	13.0

出典：スポーツ庁「スポーツの実施状況等に関する世論調査」より作成

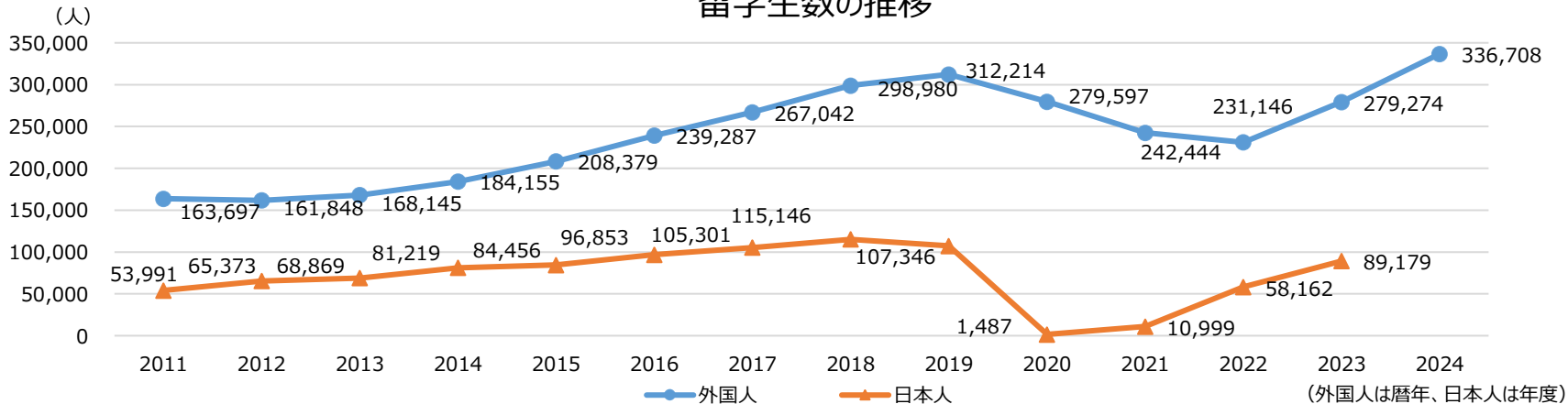
外国人相談、留学生の状況

- ▶ 大阪府・市の外国人相談において、2020年から2022年にかけてコロナ関連の相談により変動が見られるものの、2022年9月以降、件数は平準化してきている。
- ▶ 留学生数は、コロナ拡大による渡航制限等の措置等により減少に転じたが、近年は増加傾向にあり、2024年外国人留学生は、過去最高数値を達成。日本人留学生もコロナ拡大前の水準に回復しつつある。

外国人相談における相談実績の推移



留学生数の推移



(参考) シンクタンク等による大阪のポジション分析

- 総合的な評価では48都市中18位（前回35位）と大きく上昇。
- 比較的優位なものは、「居住」、「文化・交流」、「研究・開発」の指標。特に「文化・交流」の分野は、「外国人訪問者数」、「国際コンベンション件数」、「文化イベント開催件数」などで順位上昇が見られるなど、「近年、大阪の文化交流がより活発になっていることがうかがえる。」との評価を得た。

「世界の都市総合ランキング 2025」（森記念財団都市戦略研究所）

【総合ランキング2025】

	2025	前年からの変動	2024	2023	2022	2021	2020
総合ランキング	18位	+17	35位	37位	37位	36位	33位
分 野							
経 済	33位	+5	38位	38位	35位	37位	38位
研究・開発	18位	—	18位	18位	18位	18位	18位
文化・交流	13位	+10	23位	25位	29位	20位	21位
居 住	6位	+1	7位	12位	19位	21位	18位
環 境	32位	+7	39位	41位	39位	42位	41位
交通・アクセス	25位	+7	32位	37位	39位	39位	35位

1位	ロンドン	21位	チューリッヒ	41位	サンパウロ
2位 東京		22位	香港	42位	テルアビブ
3位	ニューヨーク	23位	バルセロナ	43位	ブエノスアイレス
4位	パリ	24位	台北	44位	メキシコシティ
5位	シンガポール	25位	ロサンゼルス	45位	ジャカルタ
6位	ソウル	26位	トロント	46位	カイロ
7位	アムステルダム	27位	ボストン	47位	ムンバイ
8位	上海	28位	ブリュッセル	48位	ヨハネスブルグ
9位	ドバイ	29位	シカゴ		
10位	ベルリン	30位	ダブリン		
11位	コペンハーゲン	31位	イスタンブール		
12位	北京	32位	ミラノ		
13位	メルボルン	33位	ヘルシンキ		
14位	マドリード	34位	ジュネーブ		
15位	シドニー	35位	モスクワ		
16位	ウィーン	36位	バンクーバー		
17位	ストックホルム	37位	クアラルンプール		
18位 大阪		38位	バンコク		
19位	フランクフルト	39位	ワシントンDC		
20位	サンフランシスコ	40位 福岡			

(参考) シンクタンク等による大阪のポジション分析 (個別分野の視点からの分析)

世界で最も住みやすい都市ランキング 2025 ※英誌「エコノミスト」	世界の都市の安全指数ランキング2021 ※英誌「エコノミスト」	世界で最も魅力的な都市ランキング 2025 ※米誌「コンデ・ナスト・トラベラー」																																																																						
・2021年2位、2022年、2023年10位、 2024年9位。 ・治安、医療、教育において高評価	・前回3位、医療インフラ、インフラの安全性は 高評価、個人の安全性やサイバーセキュリティ 面はやや低評価	・米国を除く世界の大都市部門において 2021年は2位 (2022年、2023年、2024、2025年は ランク外)																																																																						
<table border="1"> <thead> <tr> <th>順位</th> <th>都市</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1位</td><td>コペンハーゲン</td></tr> <tr><td>2位</td><td>ウィーン</td></tr> <tr><td>3位</td><td>チューリッヒ</td></tr> <tr><td>4位</td><td>メルボルン</td></tr> <tr><td>5位</td><td>ジュネーヴ</td></tr> <tr><td>6位</td><td>シドニー</td></tr> <tr><td>7位</td><td>大阪</td></tr> <tr><td>7位</td><td>オークランド</td></tr> <tr><td>9位</td><td>アデレード</td></tr> <tr><td>10位</td><td>バンクーバー</td></tr> </tbody> </table>	順位	都市	1位	コペンハーゲン	2位	ウィーン	3位	チューリッヒ	4位	メルボルン	5位	ジュネーヴ	6位	シドニー	7位	大阪	7位	オークランド	9位	アデレード	10位	バンクーバー	<table border="1"> <thead> <tr> <th>順位</th> <th>都市</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1位</td><td>コペンハーゲン</td></tr> <tr><td>2位</td><td>トロント</td></tr> <tr><td>3位</td><td>シンガポール</td></tr> <tr><td>4位</td><td>シドニー</td></tr> <tr><td>5位</td><td>東京</td></tr> <tr><td>6位</td><td>アムステルダム</td></tr> <tr><td>7位</td><td>ウェリントン</td></tr> <tr><td>8位</td><td>香港</td></tr> <tr><td>9位</td><td>メルボルン</td></tr> <tr><td>10位</td><td>ストックホルム</td></tr> <tr><td>⋮</td><td>⋮</td></tr> <tr><td>17位</td><td>大阪</td></tr> </tbody> </table>	順位	都市	1位	コペンハーゲン	2位	トロント	3位	シンガポール	4位	シドニー	5位	東京	6位	アムステルダム	7位	ウェリントン	8位	香港	9位	メルボルン	10位	ストックホルム	⋮	⋮	17位	大阪	<table border="1"> <thead> <tr> <th>順位</th> <th>都市</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1位</td><td>東京</td></tr> <tr><td>2位</td><td>京都</td></tr> <tr><td>3位</td><td>ケープタウン</td></tr> <tr><td>4位</td><td>シンガポール</td></tr> <tr><td>5位</td><td>ソウル</td></tr> <tr><td>6位</td><td>パリ</td></tr> <tr><td>7位</td><td>バンクーバー</td></tr> <tr><td>8位</td><td>エディンバラ</td></tr> <tr><td>9位</td><td>モンリオール</td></tr> <tr><td>10位</td><td>プノンペン</td></tr> </tbody> </table>	順位	都市	1位	東京	2位	京都	3位	ケープタウン	4位	シンガポール	5位	ソウル	6位	パリ	7位	バンクーバー	8位	エディンバラ	9位	モンリオール	10位	プノンペン
順位	都市																																																																							
1位	コペンハーゲン																																																																							
2位	ウィーン																																																																							
3位	チューリッヒ																																																																							
4位	メルボルン																																																																							
5位	ジュネーヴ																																																																							
6位	シドニー																																																																							
7位	大阪																																																																							
7位	オークランド																																																																							
9位	アデレード																																																																							
10位	バンクーバー																																																																							
順位	都市																																																																							
1位	コペンハーゲン																																																																							
2位	トロント																																																																							
3位	シンガポール																																																																							
4位	シドニー																																																																							
5位	東京																																																																							
6位	アムステルダム																																																																							
7位	ウェリントン																																																																							
8位	香港																																																																							
9位	メルボルン																																																																							
10位	ストックホルム																																																																							
⋮	⋮																																																																							
17位	大阪																																																																							
順位	都市																																																																							
1位	東京																																																																							
2位	京都																																																																							
3位	ケープタウン																																																																							
4位	シンガポール																																																																							
5位	ソウル																																																																							
6位	パリ																																																																							
7位	バンクーバー																																																																							
8位	エディンバラ																																																																							
9位	モンリオール																																																																							
10位	プノンペン																																																																							
出典：Economist Intelligence「The Global Liveability Index 2025」より作成	出典：第2回「副首都ビジョン」のバージョンアップに向けた意見 交換会（2022.1.20）資料より転載	出典：コンデナスト・トラベラー「The Best Cities in the World: 2025 Readers' Choice Awards」より作成																																																																						

(参考) 国内の都市ランキング (日本の都市特性評価)

- 森記念財団都市戦略研究所による「日本の都市特性評価2025 (国内都市ランキング)」で、東京23区を除く国内136主要都市の中で、大阪市が2021年から5年連続で総合1位。
- 「経済・ビジネス」、「研究・開発」、「文化・交流」、「交通・アクセス」の4分野で高い評価を得た。
- 特に、「経済・ビジネス」、「交通・アクセス」の2つの分野ではトップを獲得。「文化・交流」では観光地の数・評価で2位、文化財指定件数で3位となり、豊富な観光資源を有しているとの評価を得た。

■ 2024年のトップ5

総合順位	総合ランキング		経済・ビジネス		研究・開発		文化・交流		生活・居住		環境		交通・アクセス	
	都市名	スコア	分野順位	スコア	分野順位	スコア	分野順位	スコア	分野順位	スコア	分野順位	スコア	分野順位	スコア
1位	大阪市	1,355.8	1位	285.8	6位	63.2	2位	306.1	47位	305.2	80位未満		1位	207.0
2位	名古屋市	1,322.5	3位	230.4	1位	111.6	4位	197.3	1位	341.3	80位未満		2位	200.4
3位	福岡市	1,280.5	2位	248.3	4位	69.7	5位	193.6	10位	326.0	80位未満		3位	190.3
4位	横浜市	1,268.6	4位	216.9	5位	69.0	3位	258.8	51位	301.0	58位	272.5	6位	150.3
5位	京都市	1,261.9	51位	159.2	2位	91.0	1位	324.2	56位	297.4	80位未満		9位	144.8

■ 「日本の都市特性評価 (国内都市ランキング)」とは

- 一般社団法人 森記念財団 都市戦略研究所が、国内都市の総合力を毎年度評価し、公表 (最新版は2025年版)
- 対象都市は、東京を除く国内136の主要都市。(対象都市：政令指定都市、県庁所在市、人口17万人以上の都市)
※東京23区は別途評価
- 6分野、27指標グループで評価しており、総指標数は87